



12/9

### 広い体育館いっぱいで感謝を表現!

## 飯館中学校「赤蜻祭」

飯館中学校の文化祭「赤蜻祭」が真新しい中学校体育館で行われました。この日は体育館の落成披露も兼ねて行われ、開会セレモニーの後に中学校が今年取り組んできた仮設住宅訪問についての発表、クラス対抗の合唱コンクール、特設部による和太鼓・ダンスよさこい・合唱の発表が行われました。「ありがとうから～未来へ～」のテーマの通り、これまでの支援を力に、のびやかに発表を行う生徒たちに、来訪者から惜しみない拍手が送られました。訪れた保護者は「素晴らしい発表。体育館ができたうれしさが伝わってきました」と感想を話していました。

▲合唱コンクールで金賞を受賞した3年2組の情感のこもったハーモニー



▶和太鼓部の力強いリズム。支援で頂いた揃いのTシャツはコシノヒロコさん・小篠ゆまさんデザイン

## 飯館中学校に県産材で作られた

## 本棚が贈られました

12/11

間伐材製品を公共施設等に設置する県の「ほっとスペース」創出事業の一環として、県産材を使った本棚10台が飯館中学校に贈られました。県産の杉材を使ってこの本棚を製作したのは県立福島工業高校・建築科の生徒の皆さん。代表で来校した佐藤勇太さんからは「木材のやさしさを感じながら学校生活を送ってください」とあいさつがありました。中学校の学習委員長を務める末永葉月さん(3年生)は「仮設校舎のため図書室がありません。いただいた本棚に本を並べて、たくさん読んでもらえるようにしたいです。大切に使用させていただきます」と感謝の気持ちを伝えていました。



▶大きな本も入るゆとりサイズで木目が美しい本棚



▶学習委員会の代表が目録と木製の色紙を受け取りました

飯館中学校の呼びかけに、応え全国から寄せられた、忘れたくない日本の言葉「日本人の忘れもの」の審査が行われました。全校生徒による予備審査を経て、本審査では、村の「までい大使」でもある俳人の黛まどかさん、元女子マラソン日本代表の増田明美さん、ラジオ福島アナウンサーの菅原美智子さん、建築家の佐川旭さんと実行委員の生徒たちが思いを述べ合って選考にあたりました。入賞作品を刻んだ石碑は仮設校舎・昇降口前に設置され、将来村に戻る際には本校に移設して後輩たちに引き継ぐことになっています。

## たっぷりほめる しっかりかる

教育のページ

12/6

### 日本人の忘れもの

2,500点を超える応募から 23点の入賞作品が決まりました



「お天道様」という言葉は祖母から聞いていたという渡邊菜さん(写真左・2年生)「過去を見直して未来に向かっていける言葉が、うれしかったです」



西川茜衣梨実行委員長(写真右端・3年生)「忘れていた言葉、知らなかった言葉もありました。次の世代につないで、未来に向かって歩き始めます」

生徒世代の作品から  
いつも地球に桜あり  
明日はかえられる  
おかえりとただいま  
可能性は無量大  
強く優しい日本  
歩いた跡が道となる  
上を向いて歩こう  
前へ！一歩前進  
共に：  
新しい未来へ続け  
あの日の記憶。  
(以上11作品)

一般の作品から  
ありがとうございます  
おかげさまで  
お天道様が見てござる  
お互いさまです  
天知る 地知る 我知る  
おすそわけ  
和を以て貴しとなす  
までいなくらしと心  
笑う門には福来る  
温故知新  
(以上12点)

## 子育て相談室

“Vision and Work Hard”

この言葉は、このたびノーベル賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授がふだんお弟子さんたちに語り聞かしている言葉であるそうです。ビジョンとは先見性とか理想像という意味ですが、「ここでは「夢」ととらえるのが適正であろうと思います。そして夢を抱いたら「ワーク・ハード」、つまり夢の実現に向かって懸命に努力しなさい、というのが山中教授の教えであるに違いありません。

実はこの言葉は、私がこれまで教育の現場で出会ってきた数多くの子どもたちに対して、また教育相談の時にも、長年、言い続けてきた言葉です。夢や希望があつてはじめて豊かな未来が拓けます。そして懸命な努力を続けてこそ、それが実現します。飯館村は以前から「までいの精神」で子どもたちの夢を大切に育ててきた地域です。避難を余儀なくされているお正月、改めて家族みんなでお互いの“Vision and Work Hard”を語り合つてはいかがでしょうか。

飯館中学校スクールカウンセラー  
臨床心理士 海野 和夫

教育相談申し込み  
飯館中学校 ☎024-573-1161  
幼児、小学生の相談にも応じます。